

令和 7 年度 県立鹿島高等学校自己評価表

目指す学校像	◇【自治】道義と秩序を重んじ、自己に責任を持つ自主・自律生活の実践を図る学校 ◇【勤勉】学問尊重と真理を求める気風の育成を図る学校 ◇【快活】自他の敬愛と協力による豊かで快活な生活態度の樹立を図る学校	
三つの方針	具体的目標	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	卒業までに次のような生徒を育成します。 (1) 思考力・判断力・表現力を身に付け、主体的に課題発見・解決に取り組む生徒 (2) 国際感覚を身に付け、グローバル化が進展する社会で活躍できる生徒 (3) 「自治・勤勉・快活」の校訓にもとづき、地域や国際社会のリーダーとなる生徒
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	次の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。 【知】コース選択制、進学重視型単位制を生かした教育課程で、生徒一人一人の学力向上と進路実現を図る学校 【徳】カリキュラム・マネジメントを推進し、探究活動、キャリア教育等を充実させ、課題解決能力と豊かな人間性、社会に貢献できる力を育成する学校 【体】特別活動、部活動等への生徒の主体的な取組を推進し、心身の健全な育成を図る学校
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	次のような生徒を求めています。 (1) 探究心があり、学習意欲の高い生徒 (2) 地域や国際社会に貢献する意欲の高い生徒 (3) 諸活動に積極的に取り組み、自分と集団を成長させる意欲の高い生徒

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
●ICTの活用、評価と指導の一体化を実践し、授業改善のための取組を継続している。中高一貫教育校の良さを最大限に生かすカリキュラムの構築を、高校と附属中学校が協働して進めていく必要がある。	学力向上 学習指導の充実を図り、授業と評価の一体化のさらなる改善、ICT機器の効果的な活用等に取り組むことで、生徒の学力向上に努める。	◇教科指導の充実・学力向上 ア 指導体制の充実と授業時間の確保 イ 指導方法の改善と工夫 ウ 自学自習と学習活動の習慣化 ◇授業第一主義 予習・復習を重視した<鹿島スタイル>の浸透	A
	進路指導の充実 生徒が自分を見つめ、将来に対する目的意識を持ち、進路を自ら選択・決定できる進路指導の充実に努める。	◇進路指導の強化 進学目標の早期明確化と、目標実現への継続的取組 ◇就職指導の充実 資格取得の奨励や望ましい職業観・勤労観育成の推進	A
	授業改善	◇授業満足度 (KPI) 3.5 以上の達成 (令和 7 年度学校評価に係る生徒による授業評価)	B

別紙様式 2 (高)

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
●進学実績は大学・短大進学 125 名で、延べ合格者数は 207 名、国公立大学現役合格者は茨城大学の現役合格者 6 名を含む 10 名であった。今後も生徒本人が将来の明確な目的を持ったうえで、進学者数の増加を図っていききたい。就職では、公務員や地元企業等に 34 名が合格し、本年度も内定率 100% を達成した。高校 3 年間を見通した組織的・継続的な進路指導を行うとともに、キャリア教育の充実を図る。	基本的生活習慣の確立 学校として統一的な指導体制を堅持し、家庭や関係機関との連携を組織的に進めながら、自主的・自律的かつ責任ある行動のとれる人間の育成を図る。 （「み・そ・あ・じ」指導の徹底）	◇秩序を重んじ、自ら律する心や他人を思いやる心の育成 ア 人権尊重 イ 規律の遵守 ◇健康・安全意識の高揚と、交通安全・防災教育の充実 ア 交通安全教育の充実 イ 防災教育の充実 ウ 性教育の推進 エ 薬物乱用防止教育の推進	B
●部活動の加入率は、70%を超えている。複数の部活動が各種大会において上位入賞、関東大会以上の大会に出場を果たすなど、学校全体に活気があり、生徒たちの部活動への意欲は高く維持されていた。本校の伝統である文武両道を維持し、心身共に健全な生徒の育成に努めたい。	特別活動・部活動の振興 特別活動・部活動を積極的に推進し、全人的発達に努める。	◇ホームルーム・生徒会活動の活性化 ◇部活動の奨励と心身の健康の維持・増進 ア 施設設備の効果的・効率的利用 イ 地域の行事やボランティア活動の理解と参加	B
	広報・生徒募集活動の充実	◇本校への理解促進を得るための積極的な情報収集と発信 ◇計画的、継続的な生徒募集活動の工夫	B
	コンプライアンスの徹底・働き方改革の推進 （「たいせつです」運動）	◇「たいせつです」運動の推進、「One IBARAKI」等の啓発での、教職員のコンプライアンス意識発揚と、服務規程の確保 ◇教職員の「働き過ぎ」を防ぐための、積極的な業務の見直しによる働き方改革の推進	A
	学校組織運営の見直し	◇校務分掌や年次等、校務組織内の業務平準化への取組の推進 ◇講義室、執務室等、職場環境整備の推進	B

別紙様式 2 (高)

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
●学校近隣の住民や、地域の小学校や中学校に対し、定期的にホームページの更新や学校便り等で情報を提供し、地域に愛される学校づくりに努めていきたい。	デジタル環境の整備と教育内容の充実	◇デジタル環境の整備 ア STEAM LAB の利用しやすい環境のさらなる整備 イ 生徒による A I や 3 D プリンタ等 I C T 機器活用促進 ウ 企業等との連携による I C T 機器活用研修の実施 エ 探究活動等での関係機関等との連携・協力体制の構築 オ 研究機関等との連携によるアイデア具体化支援 カ 学校公開等での STEAM LAB 実習と公開授業の実施 ◇教育内容の充実 ア 「プロジェクト-K」「ACE Program」等で育成してきたレポート作成の基礎や課題解決能力の強化 イ エビデンスを重視したデータ活用等について、論理的・科学的根拠をもって課題解決に取り組む、分野横断的な授業と探究活動の推進 ウ 研究機関との関係を強化、生徒の進路希望に応じた研究室訪問や、学生メンターによる探究サポート等の推進 エ 探究活動及び情報 I を中心とした、授業での情報モラル・リテラシーの育成	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教科指導 （全体）	基礎・基本の定着	基礎・基本の定着のために練習問題等で、反復学習を徹底させる。	A	附属中学校内進生、入学する生徒の進路希望の変化に伴いより大学進学を意識した学習環境を整える必要がある。
	わかりやすい授業展開	「主体的・対話的で深い学び」のための指導方法を研究し、指導力向上に努める。	A	
		生徒の理解度を的確に把握し、確実に理解できる指導方法を工夫改善していく。	B	
		授業において、生徒同士の対話や学び合いの時間を設ける。	A	
	学習習慣の確立	家庭での自主学習促進と効果が実感できる授業を展開し、学習の習慣化を図る。	B	
国語	基礎学力の向上と、家庭での学習習慣の定着	小テスト・週末課題など具体的な学習課題を課し、確かな基礎学力の向上を図る。	A	進路実現に向け、適切な課題の選定や教材の活用を充実させる。教員間での情報の共有、授業計画の共有を図る。
		「ことばのイメージ化」のために、電子黒板・Chrome Book 等を積極的に活用する。	B	
	授業の改善	年間指導計画と評価規準を活用して、授業目標の具現化を図る。	A	
		生徒の学習状況や理解度を把握し、指導方法の工夫改善を図る。	B	
		互いの授業を参観することで、自己研鑽に努め指導力向上を図る。	B	
		I C T 機器を適切に活用できるよう、定期的に教科研修を行う。	B	
		少人数授業のさらなる充実を図る。	A	

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
地歴	基礎学力向上・授業改善	基礎・基本を大切にし、自ら調べる態度育成により、学習内容を深く理解させる。	A	ICT教育のさらなる拡充を図り、具体的な事象を提示しながら生徒の興味・関心を高め、主体的な学習活動を促していけるようにする。
		単元ごとに復習プリントや小テスト等を実施し、知識の定着を図る。	B	
		授業において、生徒同士の対話や学び合いの時間を設ける。	B	
		視聴覚教材やICT機器を活用した授業の充実を図る。	A	
	興味・関心を高める授業の工夫・改善	大学入試共通テストに即した指導の実践と、多様な指導方法を身につける。	A	
		実物や視聴覚教材等の積極的な活用により、興味・関心を高める。	A	
		資料の活用、レポートの作成や発表会等の活動で、主体的な学習の機運を高める。	B	
	郷土を知り、歴史や伝統を守る気風の育成	郷土の地理・歴史を学ぶことにより、自ら調べたり考察したりする態度を育てる。	A	
公民	基礎学力向上・授業改善	基礎・基本を大切にし、自ら調べる態度育成により、学習内容を深く理解させる。	A	時事的な事象について、新聞記事やニュース動画の視聴を通して、関心を持たせ、現代社会の諸問題を教科書の中だけのことと捉えず、興味・関心を持って授業に臨めるように工夫する。
		単元ごとに復習プリントや小テスト等を実施し、知識の定着を図る。	A	
		生徒への個別対応を重視し、考査前などの十分な補習時間の確保に努める。	B	
		視聴覚教材やICT機器を活用した授業の充実を図る。	B	
	現代社会への興味・関心を高める授業の工夫・改善	大学入試新テストに即した指導の実践と、多様な指導方法を身につける。	A	
		新聞や視聴覚教材等の積極的な活用で、具体的事象を認識し、興味・関心を高める。	A	
		時事問題を積極的に取り入れ、今を知り、未来を考えさせる機会を増やす。	A	
		模擬投票などの取り組みを行い、主権者として関心や意識を向上させる。	B	
	人間としての在り方・生き方、職業観や人生観、公民としての在り方を考える力の育成	青年期の問題を自己の問題と捉え、職業観・人生観について考える機会を増やす。	B	
		政治や選挙等について、高校生副教材を用いながら指導を充実させる。	B	
		現代社会の諸課題について自分の考えをまとめ、発表する課題をとおして、公民としての在り方、生き方を考えさせる。	A	
数学	基礎学力の充実と実力の向上	少人数習熟度別授業のさらなる充実を図る。	A	少人数習熟度授業のさらなる充実を図る。大学進学志望者増加に伴う課題の精選、課外の充実を図る。教材の共有や蓄積を進める。
		学習の理解度を客観的に把握・分析し、復習を主とした補習等の対応を充実させる。	B	
		ICTを活用し、視覚的理解を得やすい指導の充実を図る。	B	
		定期的に課題を与えることで、予習・復習の習慣化を図る。	A	
	進路希望に応じた指導	副教材や課題をコース毎に分類し、習熟度に応じた指導を徹底する。	A	
		大学入学共通テストに即した指導を行い、受験に向けたきめ細かい指導をする。	A	
		大学進学志望者増加に伴う課題の精選、課外の充実を図る。	A	
	指導と評価の改善	授業進度や生徒の理解状況を共有することで、授業の質の向上、改善に努める。	B	
		単元目標を明確にして指導と評価を行い、生徒の学習意欲の向上を図る。	B	

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
理科	科学的に探究する能力と態度の育成及び授業改善	観察・実験をとおして理解を深めさせる指導方法の充実を図る。	A	プロジェクトKでは観察・実験を行い課題の設定から発表まで科学的に探究する授業ができた。しかし、レポートの評価方法などを改善する必要があると感じた。
		少人数授業のさらなる充実を図る。	A	
		ワークシートの活用で、考え方の道筋をより理解できるよう工夫する。	B	
	科学的な自然観の育成	学習内容と自然現象や科学技術との関係を示し、生徒の興味・関心を育てる。	A	
		発問や問題演習の中で生徒からの質問を促し、双方向かつ探究的な授業を行う。	B	
		課題をとおして授業の復習を徹底し、より一層の理解と定着を図る。	B	
保健体育	生徒が自主的・意欲的に活動できる場の設定	グループ活動をとおして、自らの課題に気付かせ、互いに学び認め合う態度の育成と協働的に課題解決できるための場の設定を行う。	A	今後も引き続き、体力測定の結果や各種運動の授業を通して、運動課題や健康課題に対して、運動計画を考え、実生活の改善に取り組める、資質や能力を身につけさせる。また、I C T機器を積極的に活用することで、技能課題や思考の視覚化を図っていく。
		I C T機器を活用して技能比較を行い、練習方法を考えさせる場の設定を図る。	B	
		運動に積極的に取り組める、活気あふれる雰囲気作りをする。	A	
	生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の計画的育成	各種の運動特性に触れ、運動の楽しさや喜びを体得できる指導方法を工夫する。	A	
		生徒の能力・適正、興味・関心等に応じて種目選択を促し活動意欲の向上を図る。	B	
		日常生活に運動を計画的・継続的に取り入れることのできる指導方法を工夫する。	B	
芸術	授業において芸術の幅広い活動を展開	実践的・体験的な諸活動を多く取り入れた指導内容を工夫する。	A	鑑賞活動の充実や、幅広い題材を取り入れた授業を行い、芸術を生涯にわたり愛好する心を育成できるよう努める。
		鑑賞をとおして、創造力・表現力を向上させる言語活動での指導方法を工夫する。	A	
		生徒の興味や関心、個性を生かして主体的に関われる指導方法を充実させる。	A	
	生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成	幅広い教材により、生徒のもつ芸術的な価値意識を拡大できる教材を工夫する。	B	
		生活を豊かにする創造活動で、基礎的な資質能力を育成する指導・教材を工夫する。	B	
	我が国の伝統や諸外国の芸術・文化についての関心や理解の探究	日本の伝統音楽に触れ、歴史や哲学などへの発展的学習の機会を工夫する。(音楽)	A	
		鑑賞や制作活動で、日本の伝統美術の独自性を考察させる指導を工夫する。(美術)	A	
		芸術の歴史やその時代・生活背景について学ぶ機会を創出する。	A	
		芸術の美や多様性がより鮮明に感じ取れるよう教材を工夫する。	A	

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
外国語	家庭学習の習慣化	予習・授業・復習のサイクルを確立させ、家庭学習の習慣化を図る。	A	A 大学進学希望者の増加に伴い、語彙、読解の力をつけることに加えて、総合型選抜や2次試験の英作文、発表など、アウトプットに、より重点を置く指導を強化する必要がある。
	基礎学力の向上	授業中の声かけ、机間指導、定期的なノートや課題等の点検をととして、生徒の理解度を的確に把握し、少人数授業の充実を図りながら個別最適な指導に生かす。	A	
		語彙力育成のための定期的な小テスト等を実施し、基礎学力の定着・向上を図る。	A	
	英語力の更なる向上	英検等の外部試験受験等を奨励し、計画的・継続的に対策指導を行う。	A	
		インタラクティブ・フォーラム、スピーチコンテストなど校外で開催される英語活動への参加を促し、その対策指導を行う。	A	
		個別指導やICT機器を活用し、4技能5領域をバランス良く高める指導を行う。	A	
	生徒が意欲的に取り組む授業への工夫と改善	指導方法について教員間で情報共有を行い、常に授業の工夫改善を行う。	A	
		学校設定科目「ACE ProgrAm」と「英語読解」の授業を通して、英語への関心をさらに高める指導方法を工夫する。	A	
家庭	授業内容の研究と工夫・改善	学習意欲を高める指導方法の研究により、生徒の自立に役立つ授業を展開する。また、生徒が自ら生活の課題を発見し、解決する能力を身に付けるために、授業内容の工夫と改善を行う。	A	A 活動評価について、ループリックを見直し、生徒の学習意欲を高め、技能が習得できる評価の在り方、授業方法を強化する。
	生活に必要な基礎知識と基礎技能の習得及び実習・実験の充実	実験・実習を通して、生活に必要な基礎知識と技能の定着を図り、青年期の自立を推進できる学習内容を工夫する。	A	
		生活に必要な基礎知識と技能を習得させ、自ら家庭生活を創造する能力と実践的態度を育てるために、継続的に指導内容や指導方法の工夫と改善を行う。	A	
情報	コンピュータの基本操作の理解	日常的なコンピュータの効果的活用のため、操作技能を高める指導を工夫する。	A	A 情報モラル等の知識について、継続して指導をする。また、ICT機器の効果的な活用法についての研修が必要である。共通試験対策を計画的に進める。
	情報通信ネットワークの理解	アプリケーションソフトウェアの基本的な操作を理解させる授業内容を工夫する。	A	
商業	コンピュータの基本的なデータ処理	市販ソフトを活用し基本的な操作技能を身に付けさせる指導方法の工夫をする。	A	B ビジネスの実践力を身につけさせるため、具体的な対応例を行っていきたい。現在の科目にあった資格取得を検討する。
		情報化社会に対応できる能力を身に付けさせる教材の工夫をする。	A	
	情報化社会を認識した活用技術の定着	情報化社会におけるコンピュータの役割を理解させ、専門用語や基本的なデータ処理の方法を学習するとともに、日常生活で活用できる力を身に付けさせる授業内容の工夫をする。	A	
	資格取得の奨励	生徒一人ひとりの能力に応じた検定試験の受験級を設定し、自らの技術の到達度や知識の理解度を確認させる。	C	

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教務	進学重視型単位制の編成並びに中高一貫教育校の運営を推進	高校と附属中接続の円滑な学校運営のために進学重視型単位制教育課程の検証と見直しを行う。	A	A	曜日や、各時間のバランスをより配慮し、各授業時間の確保に努めたい。 教科内点検日は短縮日課とし、点検する時間を確保して確実に実施する。
	生徒が生き生きと輝く授業実践及び学習評価と校内研修の充実	生徒の学習意欲を喚起するために、観点別評価による適正な評価と指導の一体化に取り組む。	A		
	成績の管理	統合型校務支援システムを十分に活用し、生徒の成績に関する情報を効率的かつ正確に管理する。	B		
	授業時間の確保と緊密な連絡・調整	各分掌・年次との連絡・調整のもと、行事・日程等の効率化と精査を常に図り、授業時間の確保に努める。	A		
生徒支援	人権尊重の精神の育成	ホームルームの時間等で、命の尊さについて考えさせる。	B	A	人権尊重、情報モラル、問題行動には相関があり、自らの安全を守り、他者を尊重する態度を育成する施策の内容を、さらに検討し効果的なものにする必要がある。交通安全については、ヘルメット着用、原付バイクについて生徒周知を徹底する。
		集会やホームルーム等を活用し、偏見や差別のない学校生活の構築に努める。	B		
	基本的生活習慣の確立	登下校や生活指導により、規則正しい生活リズムの確立を図る。	A		
		規則厳守の精神の育成に努める。	A		
		社会の一員であることを自覚し、自ら正しい判断で行動できる力の育成に努める。	A		
	交通安全教育の推進	関係機関による講演会や校外指導を実施することで、交通事故防止に努める。	A		
		自転車・原付バイク・四輪車について、登録管理の徹底及び免許取得規定の厳守を図る。	A		
		生徒の自転車運転におけるヘルメットの着用と損害賠償保険の加入に努める。	B		
	情報モラル教育及び有害情報対策	様々な機会を捉えて、適切な情報活用能力の育成を図る。	A		
		講演や配信等で、最新の有害情報を具体的に生徒に掲示し、注意喚起を促す。	A		
	薬物乱用防止教育推進	警察や大学、医療機関による様々な観点からの薬物乱用防止講話を実施する。	A		
		警察や関係機関との連携を密にし、情報交換を行う。	A		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
進路支援	進路目標の実現	学習実態を含む進路希望調査を年間3回実施し、定期的に生徒の実態把握に努め、各学年の進路指導にあった適切な資料の提供を図る。	A	生徒それぞれが納得した進路決定をするべく、担任をはじめとした組織的サポートが奏功したかと思われる。ただ、主体的に進路を考えて行動する生徒が大部分である中、はなかなか希望が定まらず、スタートが出遅れた生徒がいたのも事実である。そういった生徒たちへの声かけ、動機づけの工夫を考える必要がある。また、進学希望者が増加傾向にある一方で、就職希望者も一定数存在している。生徒の進路希望先によって指導体制の差異が生まれないよう、教員側の意識を一致させることができるよう努めていきたい。
		全国模試・適性検査等の分析による生徒の学力状況の把握・評価を行う。	B	
		就職希望者の企業見学で、一人一人に適する就職を実現し、内定率100%を目指す。	A	
	進路意識の醸成	学習指導部・年次・教科との連携によるキャリア支援・進路指導の充実を図る。	A	
		大学教員による模擬授業・公開講座・大学見学会・進路講演会等の実施による生徒の進路意識の向上を図る。	A	
		総合型選抜・学校推薦型選抜に関するデータを収集・分析し、有効活用を図る。	A	
		課外授業や各種検定試験への積極的な参加を支援し、自ら学ぶ姿勢を育成する。	A	
		新課程を含む大学入学共通テストの情報収集および研究に努める。	B	
	組織的指導体制の構築	「進路資料」で精選した進路情報を提供し、各年次の進路指導をサポートする。	B	
		利用促進のために進路資料室を整備し、進路相談に適切に対応できるよう努める。	A	
特別活動	ホームルーム活動の充実	年間計画に沿って、各クラスでのホームルーム活動と行事を実施する。	A	生徒が主体的にHRの活動を行い、多くの学校行事を成功につなげた。全校野球応援は、応援団、生徒会を中心に実施できた。部活動では、安全かつ充実した活動を実施。文化部、運動部とも複数の部で、関東大会や全国大会への出場を果たしている。ボランティア活動も継続的に参加・実施しており、社会福祉、社会貢献にも意識を向ける生徒が増えている。次年度の文化祭実施に向けて、早期からの準備を徹底し、生徒主導の文化祭としていきたい。
	生徒会活動および学校行事の充実	生徒の自主的・自発的活動を促すとともにキャリアパスポート等を活用した行事運営を実践していく。学校行事の企画運営を中・高が協力して行うよう支援する。	A	
		安全管理を徹底し、各種行事をととして自主的・自律的かつ責任ある行動がとれる人間の育成を図る。	A	
	部活動の充実	部活動を奨励し、心身の健康の維持・増進に努める。	A	
		統一的な指導体制を維持し、生徒の安全と活動を見守り、部活動の環境を整える。	A	
	ボランティア活動への理解と参加	生徒が自主的にボランティア活動ができるように情報を提供し、奉仕の心の育成を図る。	A	
		地域社会に目を向け、地域に貢献する人材の育成を図る。	A	
学習支援	総合的な探究の時間の活性化	総合的な探究の時間において、学校全体の共通理解のもと、運営・補助する。	B	県の授業評価アンケートに加えて、学校視察の実施、生徒へ大学公開講座推奨等を行った。また、学習実態調査を年2回実施し、生徒の学習状況等を進路希望とあわせて共有できた。次年度探究活動は新体制のもと学校全体の共通理解をはかり、地域や外部と連携して、地域課題等に関わる探究学習を進めていきたい。
		生徒向けの「学年別進路ストーリー」の資料を作成し配布する。	A	
	効果的な学習指導法の研究と実践	いばらき高等学校学力向上推進総合事業へ参加する。	B	
		生徒による授業評価アンケートを計画し実施する。	A	
		授業改善推進プロジェクトにおける授業改善に取組み、研修等に参加する。	A	
		生徒へ大学公開講座等の案内をする。	A	
	学習支援の円滑化	全教科年間指導計画を取りまとめる。	A	
		学年、教科、他分掌との連携を図る。	B	

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
図書視聴 覚	図書館・視聴覚室の環境整備と充実	図書館の常時開館、視聴覚室等の環境整備等、利用しやすい環境づくりに努める。	A	校内の文化・情報センターとして利用者に有効に機能するよう、図書館を継続的に整備する。
		生徒や職員に購入希望調査を行い、ニーズに合った図書館づくりに取り組む。	A	
	本に親しむ環境整備	読書・学習の情報センターとして、機能的な環境づくりに努める。	B	
		図書委員会の活性化を図る。	A	
渉外	PTA活動・同窓会活動の推進	PTA総会や同窓会活動への参加率を上げ、活動の活性化を図る。	B	PTA活動に関して参加率や理解啓発にさらに努めていく必要がある。
		同窓会・学校・保護者と研修会や会議等を利用して連携を図る。	A	
		同窓会組織において女性会員の参画が促されるよう役員各位と連携を図る。	B	
	保護者と学校との連携	保護者と学校の、より緊密な連携を図る。	B	
		PTA新聞や同窓会ホームページの内容等を吟味し、その内容の充実に努める。	A	
		広報活動や各種研修会に積極的に参加する。	A	
保健厚生	学習環境の整備	校内の施設設備の定期的な安全点検するとともに管理徹底を図る。	A	生徒の健康問題等に対応するための健康観察について、現状の見直しを行い、より精度の高い
	環境美化意識の高揚	美化委員会をはじめ、クラスや部活動などで校内の美化に努める。	B	
		ゴミの分別処理の徹底を図る。	A	
	防災・防犯訓練の充実	防災避難訓練や不審者対策などの防犯訓練等を計画的に実施する。	A	
		地域の関係機関等との連携を図る。	A	
	健康・安全教育の充実	面談、相談をとおして、生徒の健康問題等に早期に対応する。	B	
		感染症対策、食生活、運動習慣確立のための情報発信を積極的に行う。	A	
	心身の健康管理ができる生徒の育成	生徒の健康管理能力育成、体力の向上のための事業を計画的に実施していく。 積極的に体育的行事に参加させ、活動をとおして仲間づくりを实践させる。	A B	
教育相談	問題を抱えた生徒への理解と情報の共有化	問題を抱えている生徒の早期発見と対応に努め、教員間の情報の共有化と共通理解を図るとともに、外部機関との連携を密にする。	A	教員間の情報共有を図り、問題を抱える生徒への積極的なカウンセリングを実施した。必要な生徒がカウンセリングを利用できるように調整していきたい。
	校内研修の充実	多様化する生徒支援に応じた研修を行う。	A	
情報	ICT教育の推進	ICT機器やアプリケーションの研修等を実施し、活用促進を図る。	A	端末、記録媒体の管理方法を見直し、徹底する。
	情報セキュリティ管理	端末、記録媒体などの管理を徹底する	A	
	運用・管理	教育情報ネットワークアカウント、Google Classroom、Classi の管理・運用を適切かつ円滑に行う。	A	

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
広報	企画運営の習得	様々な広報活動に取り組む中で広報活動の意義を理解する。	A	今年度は、ホームページ閲覧数も増加し、学校説明会には1,100名以上が参加した。来年度に向けて、学校案内を、より学校の取り組みが伝わるものに充実させていきたい。また、学校公開のやり方も見直していきたい。
		協力して有機的な広報活動を行うために、附属中学校と緊密に連絡を取り合う。	A	
	広報活動の刷新	学校ホームページを頻繁に更新し、閲覧数を増やす。	A	
		スクールガイド、ポスター等の内容を精選、洗練したうえで作成し、近隣中学校等に配布することで、本校教育活動が地域により魅力的に見えるようにする。	A	
		写真や動画を積極的に活用し、本校の教育活動を地域にわかりやすく知らせる。	A	
	学校紹介の充実	魅力あるコンテンツで、学校説明会や学校公開を充実させる。	A	
		「鹿苑だより」「鹿高ブログ」等を発信し、地域や保護者と情報を共有する。	A	
第1年次	本校の新しい歴史と伝統を作り上げていく精神の育成	年次行事や学級活動等で、本校の歴史と伝統を自覚し、鹿島高校生としての誇りと行動を心がけ、充実した高校生活を送れるよう意識を高める。	A	年度予定の進路行事は滞りなく行うことができた。時間的に集会を開くことが難しかったため、次年度は集会を可能な限り開き、遅刻や服装等の基本的な生活習慣の再徹底を図り、学習に専念できる基盤の働きかけをする。また自学自習を定着させ、学年全体で早期の進路情報収集に注力するなど、組織的な指導で生徒の志望実現の後押しをしていく。
	規範意識の涵養と心の教育	年次集会や道徳等を通じて、基本的な生活習慣の確立に努める。	B	
		道徳・LHRを含む教育活動全体の中で、規範意識の向上と心の教育を図る。	A	
	学力の向上と進路目標の設定	主体的に授業に取り組む姿勢を養い、基礎学力を身につけさせ、自らの成長を実感できるようにする。	A	
		予習・復習を中心に家庭学習の習慣化及び学習内容の定着を図るため、各教科で小テストなどを実施し、基礎学力の定着・学力向上を目指す。	A	
		進学課外や各種進路行事に積極的に参加させ、将来の進路の方向性を明確化させる。	B	
	特別活動に積極的に参加する精神の高揚	部活動や生徒会活動・学校行事・ボランティア活動等への積極的な参加を促すとともに、自主・自律の姿勢、健全な精神の育成を図る。	A	

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
第2年次	学力の向上と進路目標の設定	予習・授業・復習のサイクルを確立させ、自らの学習を調整しつつ粘り強く取り組む姿勢を養い、基礎学力の定着を目指す。	A	A	多くの生徒が、進路が明確になってきた一方で、具体的な行動が伴っていないと感じる生徒が多い。自分の進路に向けて必要なことに目を向けさせ、十分な準備ができるように3年次職員を中心にサポートしていきたい。 また、進路決定後も基本的な学校生活を疎かにしないことも併せて指導していきたい。
		課外講座への参加や発展的な学習を通して、希望進路実現のための確かな学力の育成を目指す。	B		
		各種進路行事への参加や時事問題の学習、学問研究をとおして、社会への課題意識と自らの適性に基づいた確実な進路選択の方向性を定めさせる。	A		
	規範意識の涵養と社会性の育成	年次集会や個別面談等をとおして、基本的な生活習慣の確立に努める。	A		
		TPOをわきまえ、適切な言葉遣いや挨拶等ができるよう、指導を継続する。	B		
	学校生活の充実	文武両道の精神に基づき、部活動やその他課外活動と学業の両立を図れるよう指導を継続する。	A		
		修学旅行をはじめとする年次行事を有意義なものにするため、綿密な計画のもと、教員間の連携を図りながらその実現を目指す。	A		
	特別活動に参画する精神の高揚	生徒会活動・学校行事・ボランティア活動等の社会活動への積極的な参加を促し、活動を通して学校や社会の一人としての当事者意識を高める。	B		
第3年次	規範意識の涵養と主体性・社会性の育成	社会で通用する言葉遣い、挨拶などTPOをわきまえた言動ができるように指導を継続する。	A	A	総合的な探究の時間の有効な活用に課題が残った。 また、総合型選抜、学校推薦型選抜について進路支援体制が未整備な部分があり、年次に任されている面が多い。今後、より一層年内入試の受験者が増えていくことを考えると、マンパワーが不足することが予想される。学校全体として一定の指導の型を構築していく必要がある。
		集団の中での役割を自覚し、主体的に行動するとともに、社会性を身に付けるための様々な教育活動をとおして、責任感や他者を思いやることのできる助け合いの精神を育成する。	B		
	進路実現のための確かな学力を身につける	面談等個別指導の充実を図り、適切な進路選択ができるように生徒に寄り添い、助言・指導する。	A		
		予習・復習の徹底で授業への集中を促し、家庭学習も定着させ、希望進路の実現に向けた生徒の学力向上を図る。	A		
	学校生活の充実	自主・自律の姿勢を中心に部活動と学業の両立を図るよう、指導を継続する。	A		
		生徒会活動・学校行事・ボランティア活動等の社会貢献活動への積極的な参加を促すことで、健全な精神の育成を図り、充実した学校生活が送れるよう支援する。	A		

※ 評価基準 A=大変良くできた B=良くできた C=普通 D=やや不十分 E=不十分